

講義名	コーチング論				授業形態	
担当教員	内田 遼介	開講期・曜日・時限		後期 火曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生	ナンバリング・コード

主題と概要
本講義ではアスリートのコーチングに関わるトピックについて幅広く学ぶ。具体的には、スポーツ指導者に求められるコーチングの理念や哲学といったトピックから、実際のスポーツ指導場面において重要となるトレーニングの組み立て方、行動変容を促す指導方法など実践的なトピックまで幅広く解説する。講義の後半では、特定のスポーツ指導者を各自で選択してもらい、当該指導者がいかなる点で優れているのか、授業内容を踏まえたうえで考察を行い、他の学生に対して説明することを求める。

到達目標
①実際に活躍しているスポーツ指導者について、何が優れているのかコーチングに関する諸理論から他者に説明することができる。 ②コーチングに関連する知識を自らの実践活動に活かすことができる。

提出課題
・講義終了後に提示する課題の提出 ・プレゼンテーションに関連する資料の提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
・毎週、講義内容に関する感想・質問を提出してもらう。提出された感想・質問のうち、特に全体で共有した方が望ましい内容については、復習を兼ねて翌週の冒頭5分程度を使って紹介・解説をする。 ・第14週目と第15週目に実施するプレゼンテーションについては、講義終了後に担当教員から即座にフィードバックをする。また、学生間でプレゼンテーションの出来について相互評価を実施する。学生間の相互評価については担当教員が集約したうえで各学生にフィードバックする。

評価の基準
・第1週目～第10週目に提示する課題（30%） ・第11週目の理解度確認テスト（35%） ・第14週目・第15週目のプレゼンテーション（35%）

履修にあたっての注意・助言他
・原則として毎週、課題の提出を求める。 ・講義中にコーチング場面における反倫理的行為(暴力、暴言、セクシュアル・ハラスメントなど)に関わる事例を取り上げることがある。このような事例を知りたくない学生については事前に相談すること。 ・第14週目と第15週目のプレゼンテーションについては、原則1名ずつの発表を予定しているが、受講者数によっては、2名1組などグループでの発表に切り替える可能性がある。 ・第14週目までに各自でプレゼンテーションを録画してオンライン上に録画ファイルをアップロードすることを求める。そのため、マイク付きのパソコン(Webカメラも付いていることが望ましい)を使用できる環境があり、かつパソコン上でOfficeソフト（特にPowerPointとWord）をある程度使いこなせるスキルを有していることを求める。ただし、このような作業環境やスキルが無い場合であっても、受講生同士で協力して解決できるのであれば受講可能である。 ・プレゼンテーションに係る作業を自己完結できない受講生については補講に参加することを求める。 ・基礎能力（パソコンの基礎）や情報処理入門などの講義を通じて、ある程度パソコンの基本的な操作（ファイルの保存方法など）やOfficeソフトの操作に慣れておくことが望ましい。

修にわたっての注意・助言他	
- 原則として毎週、課題の提出を求める。 - 講義中にコーチング場面における反復練習の行為(暴力、暴言、セクシュアル・ハラスメントなど)に関わる事例を取り上げることがある。このような事例を知りたくない学生については事前に相談すること。 - 第14回目と第15回目のプレゼンテーションについては、原則1名ずつの発表を予定しているが、受講者数によっては、2名1組などグループでの発表に切り替える可能性がある。 - 第14回目と第15回に各自でプレゼンテーションを録画してオンライン上に投稿ファイルをアップロードすることを求める。そのため、マイク付きのパソコン(webカメラも付いていることが望ましい)を使用できる環境があり、かつパソコンとOfficeソフト(特にPowerPointとWord)をある程度使いこなせるスキルを有していることを求める。ただし、このような作業環境やスキルが無い場合であっても、受講生同士で協力して解決できるのであれば受講可能である。 - プレゼンテーションに係る作業を自己完結できない受講生については補講に参加することを求める。 - 基礎能力(パソコンの基礎)や情報処理入門などの講義を通じて、ある程度パソコンの基本的な操作(ファイルの保存方法など)やOfficeソフトの操作に慣れおくことが望ましい。	

参考図書				
.グッドコーチになるためのコーチング.	平野裕一・土屋裕晴・荒井弘和(共編)	培風館	2400	9784563052522
参考図書				
.運動学習とパフォーマンス 理論から実践へ.	シュミット, R.A. 調枝孝治(監訳)	大修館書店	5280	9784469262803

その他
授業に関連する資料については担当教員が印刷して配布する。

授業計画
1 授業ガイダンス、イントロダクション: コーチングの理念・哲学 2 コーチング(1): トレーニングの原理・原則、トレーニングの思考・行動サイクル 3 コーチング(2): 競争発達に合わせたコーチング、女性アスリートへのコーチング 4 コーチング(3): 競技学習、テータと専技能力の重要性 5 コーチング(4): 効果的なフィードバック方法 6 アスリートの健康(1): アスリート の休養 7 アスリートの健康(2): アスチ・トレーニング 8 コーチングにおける倫理(1): 倫理的なコーチングについて考える 9 コーチングにおける倫理(2): スポーツ指導者による体罰問題 10 スポーツ指導者のセルフコントロール、選手とのコミュニケーション 11 ここまでのまとめ: 理解度確認テスト 12 プレゼンテーションに向けた準備 (1): 優れたスポーツ指導者の特徴について考える 13 プレゼンテーションに向けた準備 (2): 発表スライドの作成 14 プレゼンテーション (1) 15 プレゼンテーション (2)、総括

授業形態（アクティブ・ラーニング）		
ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<予習> ・毎回講義終了後に、次の予告と講義内容に関するキーワードを提示するので、各自そのキーワードを参考に教科書や関連図書などを通じて予習しておくことが求められる（2時間程度）。 <復習> ・講義終了後に講義中に学習した内容について再度確認して整理しておくことが求められる。さらに、当日紹介したトピックと関連する実際の事例について新聞記事データベースなどを使って探し、コーチングに関する理解を深めることが望ましい（2時間程度）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
コーチングに関わる諸理論を理解するだけでなく、実際に学習者（子供、部下、選手など）を効果的に指導する方法を理解しておくことは、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業する際に有用な知識となる。また、コーチングに関する知識を体系的に学ぶことで、幅広い年齢層に対応できるコミュニケーション能力やリーダーシップ力、マネジメント力を獲得できる。そのほか、授業後半に実施するプレゼンテーションの経験を通じて、プレゼンテーション能力の一端を身に着けることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
・Googleフォームを使って課題の提示や理解度確認テストを行う。 ・クリックカーを使って講義中に紹介した内容について学生一人ひとりが質問や感想を求めることがある。

実務経験の有無及び活用
なし

備考
・授業の内容や進め方は社会情勢や受講生の理解度に応じて変更する場合がある。 ・遅刻や欠席については厳格に取り扱う。特別な事情が無い限り、出席確認終了後の入室は全て遅刻として扱う。また30分が経過してからの入室は欠席とする。 ・教室内で授業を受けていないにもかかわらず出席しているかのような偽装行為を行った場合は単位を認めないなど厳正に処分する。 ・欠席については修業時間5%の記名の通り対応する。必要な書類が揃っていない場合は受け取るできないので事前によく確認してから提出すること。 ・講義期間中に受講に関わるトラブルが発生した場合は担当教員までメールにて連絡すること。その際、学籍番号・氏名・受講している講義名・トラブルの詳細を必ず本文中に記載して連絡すること。記載がない場合は回答しないことがある。